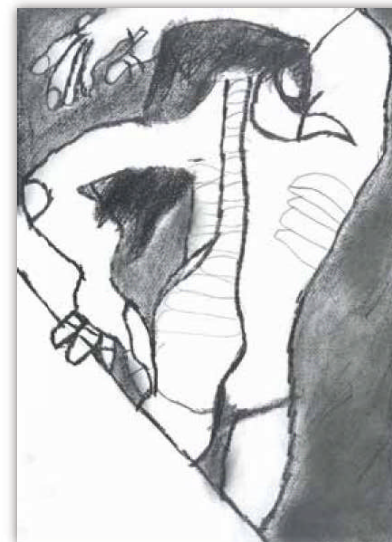




『裸の女』2010年
水彩紙に鉛筆、色鉛筆
760×540mm



『裸の女 2』2008年
ワトソン紙に鉛筆
547×394mm



比嘉 野歩治 Nobuji Higa

1978年～ / 滋賀県在住

少年の頃から絵を描くのが大好きで、自宅にも花や身近な風景などを描いた多くのスケッチブックがあります。2007年に現在通っているアトリエに参加してから、雑誌の中の女性の写真を見て描くようになりました。

比嘉さん独自のデフォルメ(対象を変形して表現すること)は、考えながらやっているのではなく、写真の女性をひたすら一生懸命に見て描き進めるうちに、自然にでき上がった結果の形なのです。全体のバランスを考えているわけではなく、無我夢中で描いてゆくうちにでき上がった、とても個性的なカタチです。

使っているのは、濃い鉛筆です。女性の顔、髪の毛、身体などの部分を、雑誌の写真を見ながら誠実に描き進むうちに、最終的にこのような形になってゆくのです。

鉛筆を濃く塗り込む腕の力は、彼の内にひそ

んでいるエネルギーを自然に誘い出してゆくようです。画用紙も徐々に大きくなってゆき、画面からはみ出んばかりの解放感あふれる絵になっています。これは、どうやら鉛筆で描くことにも関係がありそうです。つまり、鉛筆で濃く描くためには、腕にかなりの力が必要です。力を入れてゴリゴリと描いてゆくことで、自分の身体の中にあるエネルギーが、少しずつ発散されていくのでしょうか。



『裸の女 11』2011年
画用紙に鉛筆、色鉛筆
790×546mm

比嘉 野歩治